宮田直彦のエリオット波動レポート

マーケット見通し(短期アップデート) 6 月 11 日 10:34AM 更新

[日経平均]

【当面の想定レンジ】 35,000～40,000 円

[NY ダウ]

【当面の想定レンジ】 36,000～40,700 ドル

[ナスダック]

【当面の想定レンジ】14,500～17,500

[米ドル/円]

【当面の想定レンジ】 137.000～161.350 円

[ドルインデックス(ドル指数)]

【当面の想定レンジ】 99.578～108.350

エリオット波動とは

株式・為替動向を予想する心強いテクニカル手法

米国人ラルフ・ネルソン・エリオットが提唱した、今後の株式や為替など市場価格の動向を予想する手法です。

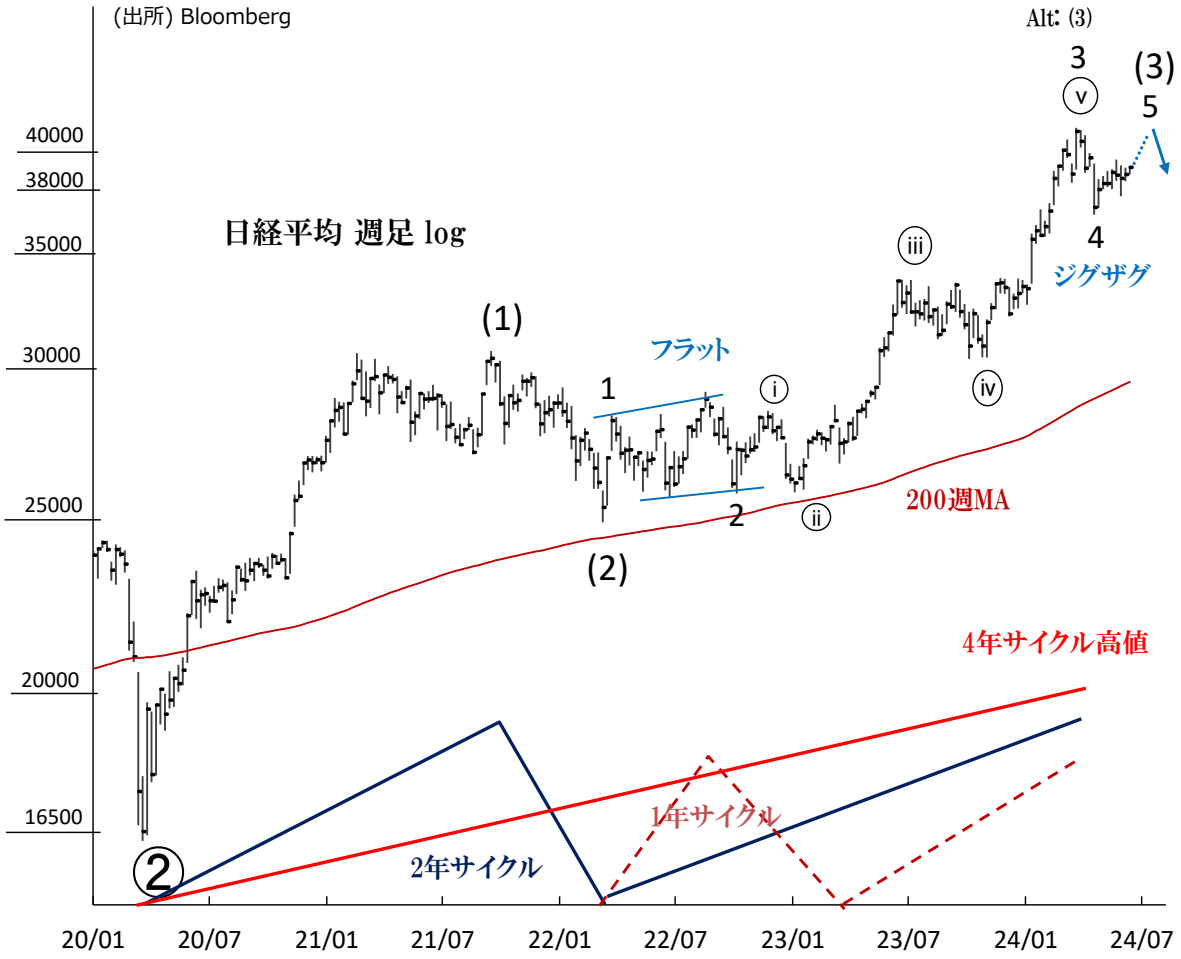
相場は 5 つの上昇波と 3 つの下降波（合計 8 つの波）で一つの周期を作るパターンに従って展開するとされます。

このパターンは集団心理によるもので、数分から数十年といった様々な時間軸において観察されます。

フィボナッチ数列、黄金分割比率をチャート分析に初めて導入したのもエリオットです。

© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.

日経平均



【週足・エリオット波動分析】

4 月 19 日安値(36,733 円)は、インターミディエイト級第(3)波における、マイナー級第 4 波(ジグザグ)の終点であり、そこからの上昇はマイナー級第 5 波とカウントされます。

このマイナー級第 5 波の上昇完成を以て、22 年 3 月安値(24,681 円)以来の(インターミディエイト級)第(3)波は終わります。その後はインターミディエイト級第(4)波による調整局面に移ることになります。

今月(6 月)は、現行 4 年サイクル底の注目月ですが、今月中に第 5 波と第(4)波を完成するには到底時間が足りません。おそらく 4 年サイクル底を付けるのは、7 月～11 月※のことでしょう。

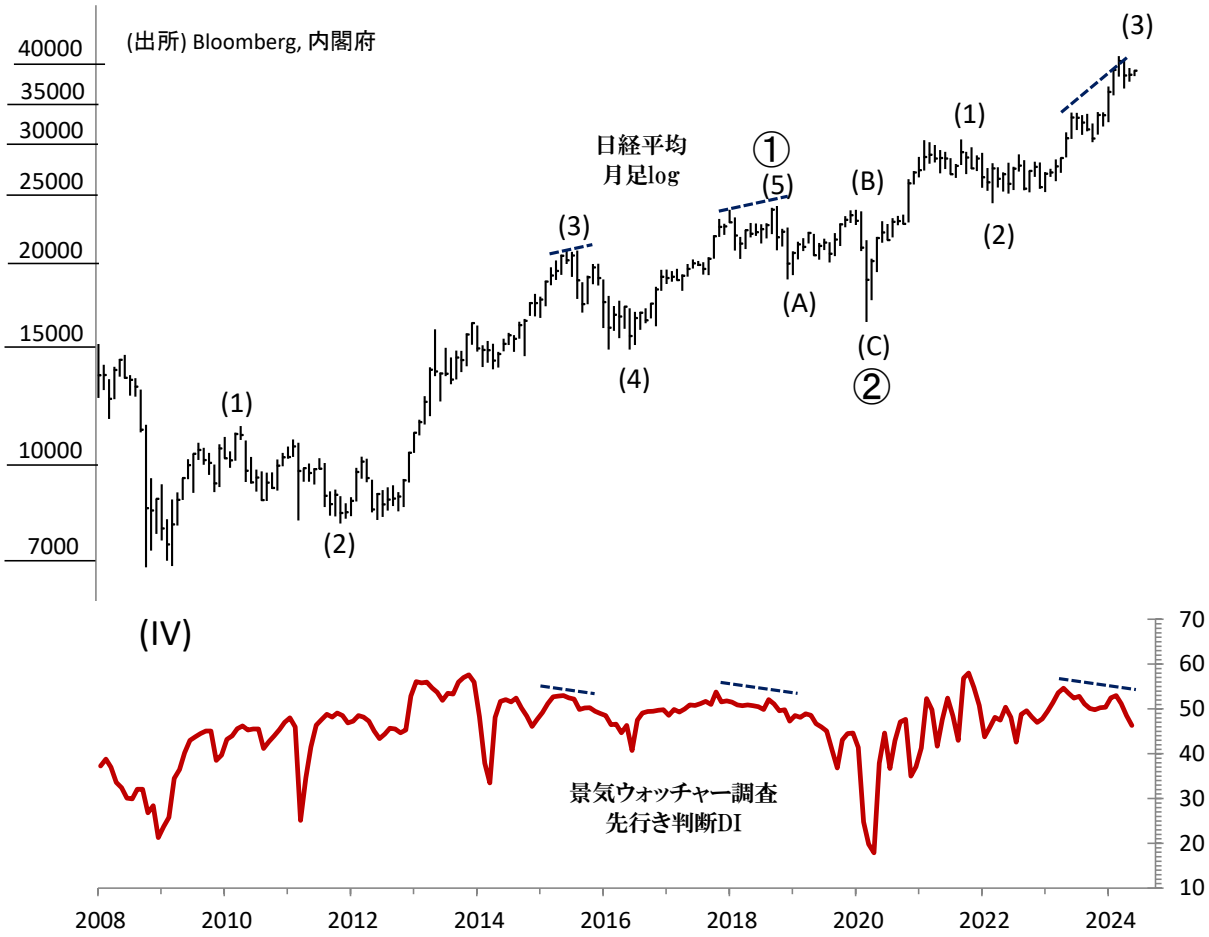
※4 年サイクル(48 カ月)の伸びしろ(オーブ)は 8 カ月(48 カ月の六分の一)です。20 年 3 月から 4 年 8 カ月が経過する時点が今年 11 月です。

なお現行 4 年サイクルの終わりと第(4)波の終わりは、必ずしも一致しません。
日経平均の第(2)波(21 年 9 月～22 年 3 月)は半年間にわたる[ジグザグ]でした。

© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.

[オルタネーション]に基づくと、第(4)波には[フラット]や[トライアングル]など、第(2)波に現れたジグザグとは異なるパターンが現れやすい、といえます。

例えば第(4)波がフラット(A-B-C)と仮定した場合、A 波安値と 4 年サイクル安値が重なり、第(4)波自体の完了は 25 年以降になる、ということが考えられます。



さえない経済指標が相次ぐ

内閣府が 10 日発表した 24 年 1～3 月期の実質 GDP(前期比年率)改訂値は、上方修正後で 1.8%減。23 年 7～9 月期(3.7%減)、10～12 月期(0.4%増)に続き、3 四半期続けて低調な内容でした。

同じ日発表の景気ウォッチャー調査では、現状判断指数 DI が 3 カ月連続で悪化しました(3 月 49.8→4 月 47.4→5 月 45.7)。長引く物価高が響いています。

先行き判断 DI も 3 カ月連続の悪化(3 月 51.2→4 月 48.5→5 月 46.3)となりました。
同 DI は 23 年 4 月(54.6)よりも 24 年 2 月(53.0)の方が低くなっています。一方、同じ期間の株価は大きく上昇しています。このような逆行の後に株価は大きく調整する傾向があり(上グラフ参照)、今回も潜在的な株価調整リスクに注意が必要です。

© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.

【日経平均 日足・エリオット波動分析】

36,733 円(4/19 安値)から、マイナー級の第 5 波による上昇が進行中とみられます。

現行第 5 波の内部構造は、波の重なりが多いチョッピー(choppy)なものであり、典型的な(すっきりとした)衝撃波ではありません。このことは、第 5 波が「エンディング・ダイアゴナル」編成で上昇している、という示唆となっています(次の時間足チャートをご覧ください)。

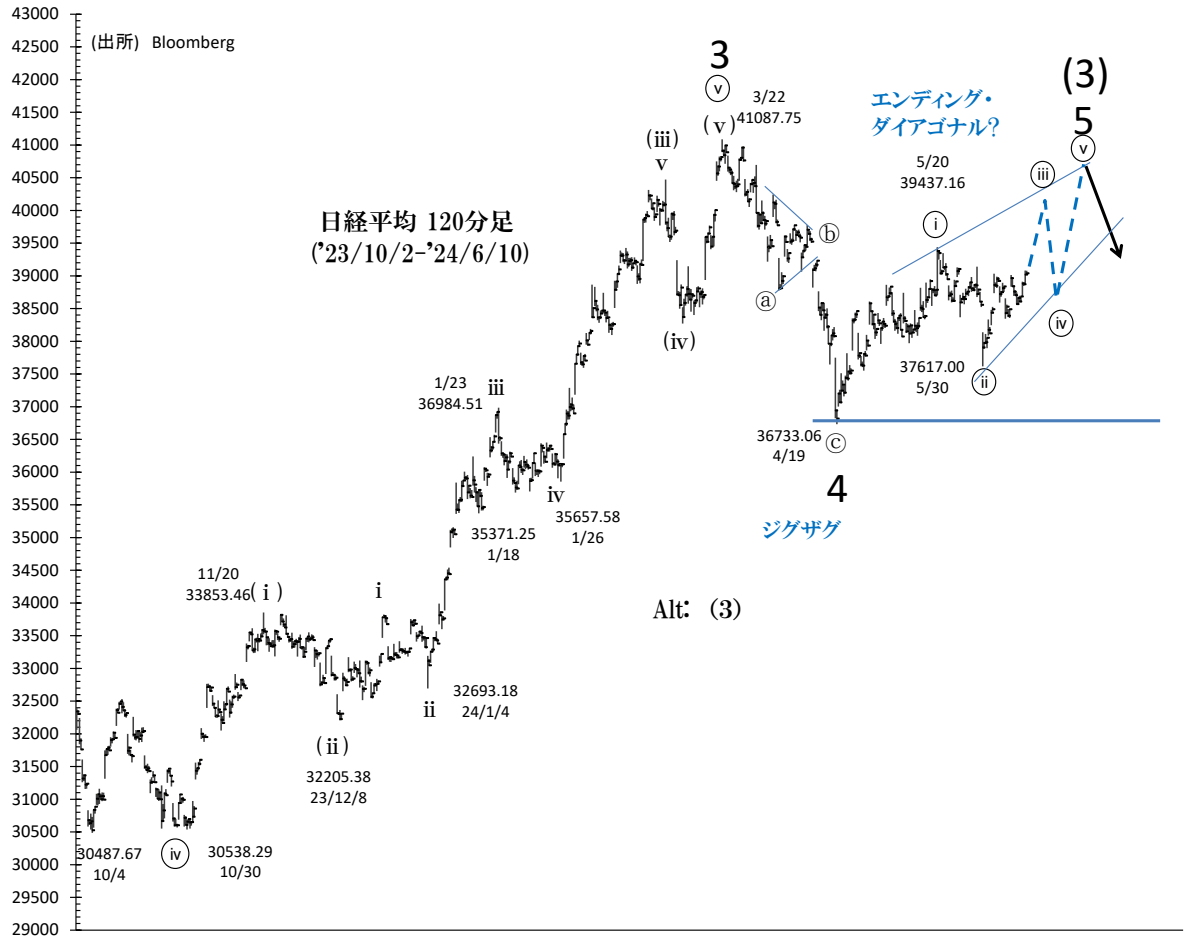
なお TOPIX コア 30、TOPIX バリュー株指数、JPX 日経インデックス 400 などは、3 月高値を一時上抜いていますが(6/3)、日経平均の(3)-5 波の終点高値は 3 月高値(41,087 円)には届かない[フェイラー]の可能性もありそうです。

[オルタナティブ・カウント]

現在の調整はインターミディエイト級の第(4)波です。

36,733 円を下抜くとこの見方が有力となり、もっとも厳しいケースでは、日経平均は 3 万 1000 円処へ下押す可能性があります。

© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.



【日経平均 時間足・エリオット波動分析】

36,733 円(4/19 安値)以来、マイナー級第 5 波による上昇が展開中です。

この第 5 波は[エンディング・ダイアゴナル]とみられますが、そのうちマル i 波は 39,437 円(5/20 高値)で、マル ii 波は 37,617 円(5/30 安値)で終わり、そこからはマル iii 波による上昇とみられます。

この見方が正しければ、マル iii 波は 39,437 円(5/20 高値)をいったん上抜きます。その後はマル iv 波の下げ(39,437 円と重なるでしょう)があり、そして最終的にはマル v 波の上昇へ続くでしょう。

なお当面のサポートは 37,617 円ですが、それを下抜くと 36,733 円を維持できるかが、次の焦点になります。仮に 36,733 円をも下抜くようであれば、既に第(4)波の調整に入った可能性が高いでしょう。

© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.

NY ダウ

【NY ダウ日足・エリオット波動分析】

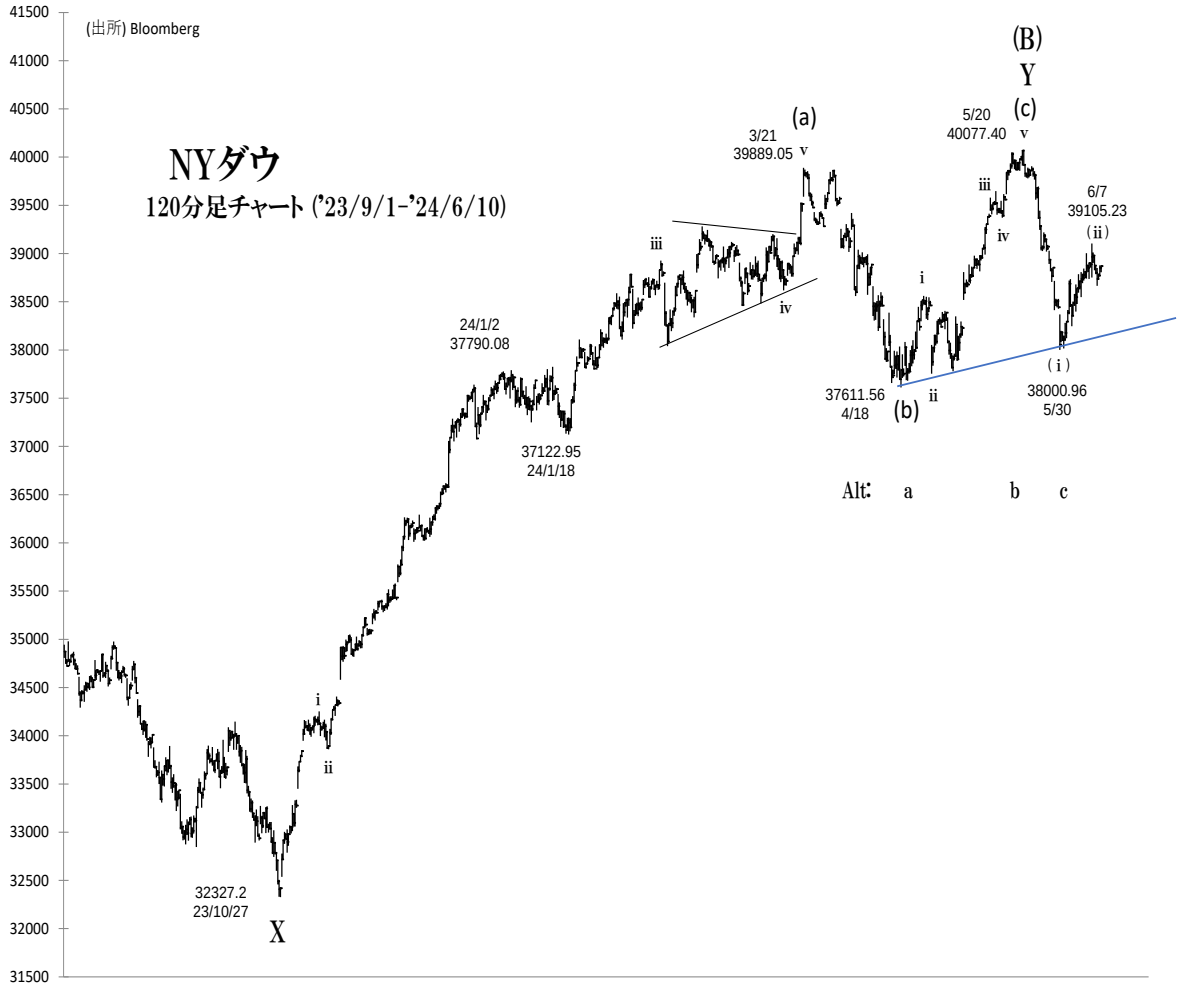
NY ダウは 22 年 1 月高値(36,952 ドル)から、プライマリー級④波を展開中とみています。22 年 10 月からの上昇は④波における(B)波であり、それは「不規則天井(イレギュラー・トップ)」です。(B)波の後に続く(C)波の下落スケールは、(A)波の下落(22 年 1 月～22 年 10 月)に匹敵するか、あるいは、より大きなものになるでしょう。

22 年 10 月安値(28,660 ドル)を起点とする④波中(B)波の上昇は、ダブル・ジグザグ[W-X-Y]。そのうち、23 年 10 月安値(32,327 ドル)からの上昇は Y 波ジグザグ[(a)-(b)-(c)]です。

そして、この Y 波は 40,077 ドル(5/20 高値)で天井を打ち、④-(C)波による下落が始まったかもしれません。この見方は 37,611 ドル(4/18 安値)を下抜くことにより強められ、NY ダウは当面、200 日 MA を目指し下落していく展開が想定されます。

200 日 MA…36,912 ドル(6/10)

© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.



【NY ダウ時間足・エリオット波動分析】

40,077 ドル（5/20 高値）から 38,000 ドル(5/30 安値)までは第（ｉ）波による下落、そこからは第（ii）波によるリバウンドとカウントできます。

NY ダウは当面、第(i)波の下げ幅に対する 50%-61.8%戻り[39,039 ドル-39,284 ドル]を目指すとみています。そんな上値試しの動きを経て、第（iii）波の下落が始まるでしょう。6 月 7 日高値（39,105 ドル）は想定レンジ内で付けています。第（ii）波は完了しつつあると思われます。

38,000 ドルを下抜くと第（iii）波入りの可能性が高まり、当面は 37,611 ドル(4/18 安値)を試すでしょう。

一方 37,611 ドルが維持される限り、上値追いのチャンスは引き続き残っています。
仮に 3 月高値からの(b)波を「ランニング・トライアングル」とみれば、38,000 ドル(5/30 安値)からはトライアングル中 d 波に位置付けられます。この場合、来る e 波の下げによっても 38,000 ドルは維持され、40,077 ドルを上抜く「最後の上昇」があるでしょう。

© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.

ナスダック

【ナスダック総合指数日足・エリオット波動分析】

22 年 12 月からの上昇は、プライマリー級第④波における(B)波に位置付けられます。(B)波終了後には(C)の下落がスタートしますが、(C)波によりナスダックは 12,500～10,000 へ下落する可能性があります。

④-(B)波による上昇はこれまで、[ダブル・ジグザグ(W-X-Y)]を形成しています。今年 4 月安値(15,222)からの上昇は、Y 波(ⓐ-ⓑ-ⓒ)中ⓒ波に位置付けられます。

既に 15,222(4/19 安値)以来のⓒ波完了に必要な、(ⅰ)波～(ⅴ)波の五つの波動はすべて揃いました。あとは(v)波の上昇余地がどの程度残っているか(6 月 6 日には高値 17,235 を付けました)が焦点です。

ⓒ波終了は時間の問題とみられます。予想される調整局面に備えておくことが肝要でしょう。

© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.

【フィラデルフィア半導体株指数(SOX 指数)・エリオット波動分析】

22 年 1 月高値(4068)以来のパターンは[ｴｸｽﾊﾟﾝﾃﾞｨｯﾄﾞ・ﾌﾗｯﾄ]、あるいは[ﾗﾝﾆﾝｸﾞ・ﾌﾗｯﾄ]と想定されます。どちらのパターンも内部構造は(A)↘-(B)↗-(C)↘です。

[ｴｸｽﾊﾟﾝﾃﾞｨｯﾄﾞ・ﾌﾗｯﾄ]の場合、(C)波の下落により、SOX 指数は 22 年 10 月安値(2089)を大きく下回るでしょう。

[ﾗﾝﾆﾝｸﾞ・ﾌﾗｯﾄ]だと、(C)波の下落によっても 22 年 10 月安値は維持されます。それでも(C)波のスケールは、22 年の下落(A)波に匹敵する大きなものになると思われます。

22 年 10 月安値(2089)以来の上昇(B)波は[ダブル・ジグザグ(W-X-Y)]、4 月安値(4287)からは Y 波中ⓒ波の上昇とカウントされます。

SOX 指数は 6 月 10 日に一時 5379 まで上昇、最高値を更新しました。

既にⓒ波を構成する必要な 5 つの波はすべて揃っています。SOX 指数はいつ天井を付けてもおかしくありません。

© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.

米ドル/円

2011 年 10 月の 75.570 円以来の(A)-(B)-(C)[ジグザグ]による円安ⓦ波は、151.899 円(22/10/21)を以て終わり、そこから 2028 年頃までレンジ相場を形成していく、というのが筆者による米ドル/円(ドル/円)の基本観です。直近の 34 年ぶりドル高・円安も基本的には、レンジ相場内の値動きの一環です。

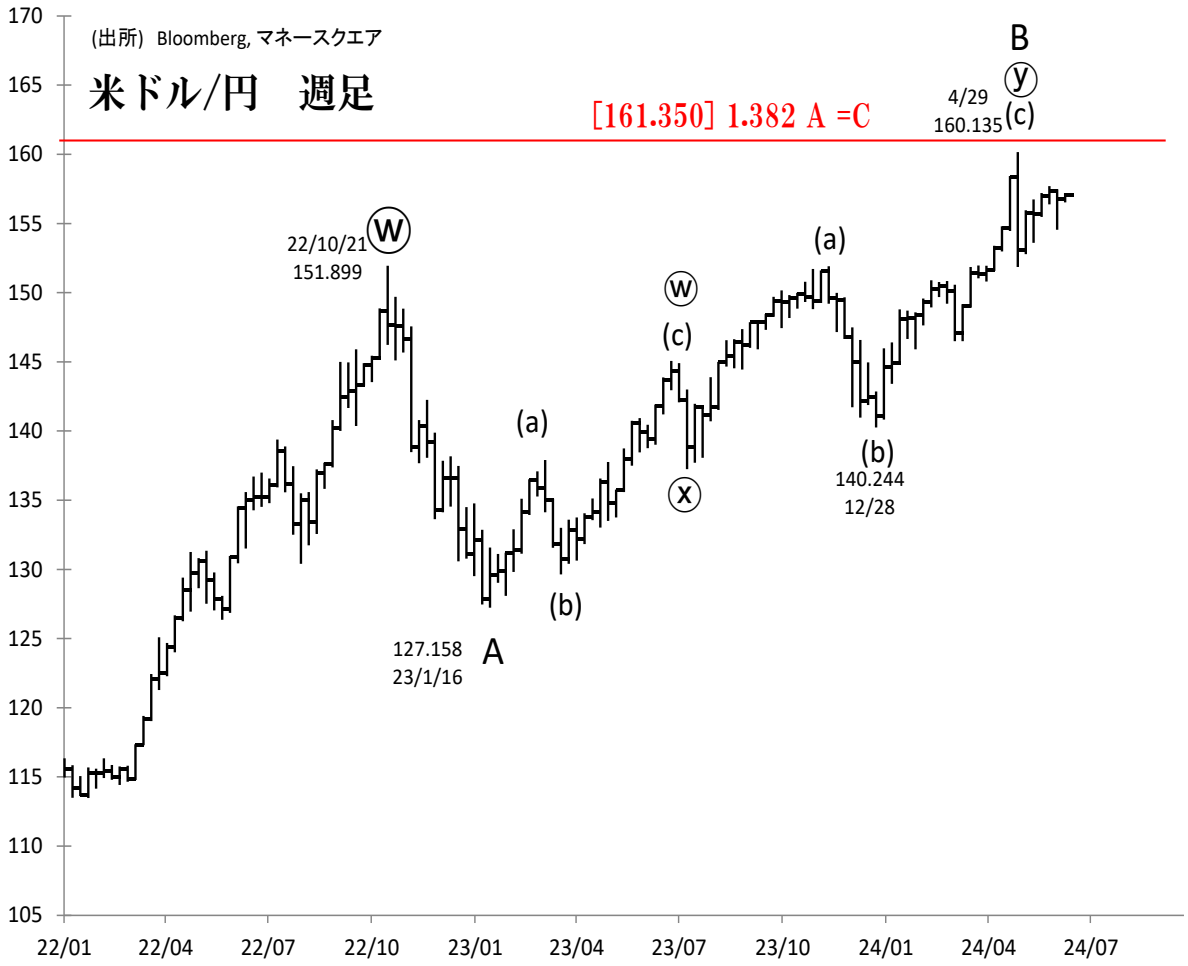
【月足・エリオット波動分析】

22 年 10 月(151.899 円)以来、長期円安トレンドにおける中間波・Ⓧ波が進行中です。
このⓍ波は 2028 年頃まで大きなレンジ相場(トライアングル、フラットなど)を形成するとみています。

ドル/円は 4 月 29 日の 160.135 円を以て、8 年サイクル高値※を付けた可能性があります。
日柄面ではちょうど 34 年ぶり(フィボナッチ数)に 90 年 4 月高値(160.360 円)に「里帰り」を果たし、水準面では第(Ⅲ)波中レッサー・ディグリー第Ⅳ波の高値に一致しています。

※およそ 8 年間隔でドル/円高値が巡る『8 年サイクル』を振り返ると、過去もっとも長いサイクル期間は 106 カ月(98 年 8 月～07 年 6 月)でした。前回サイクル高値(15 年 6 月)から 106 カ月経過時点が 24 年 4 月です。

© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.



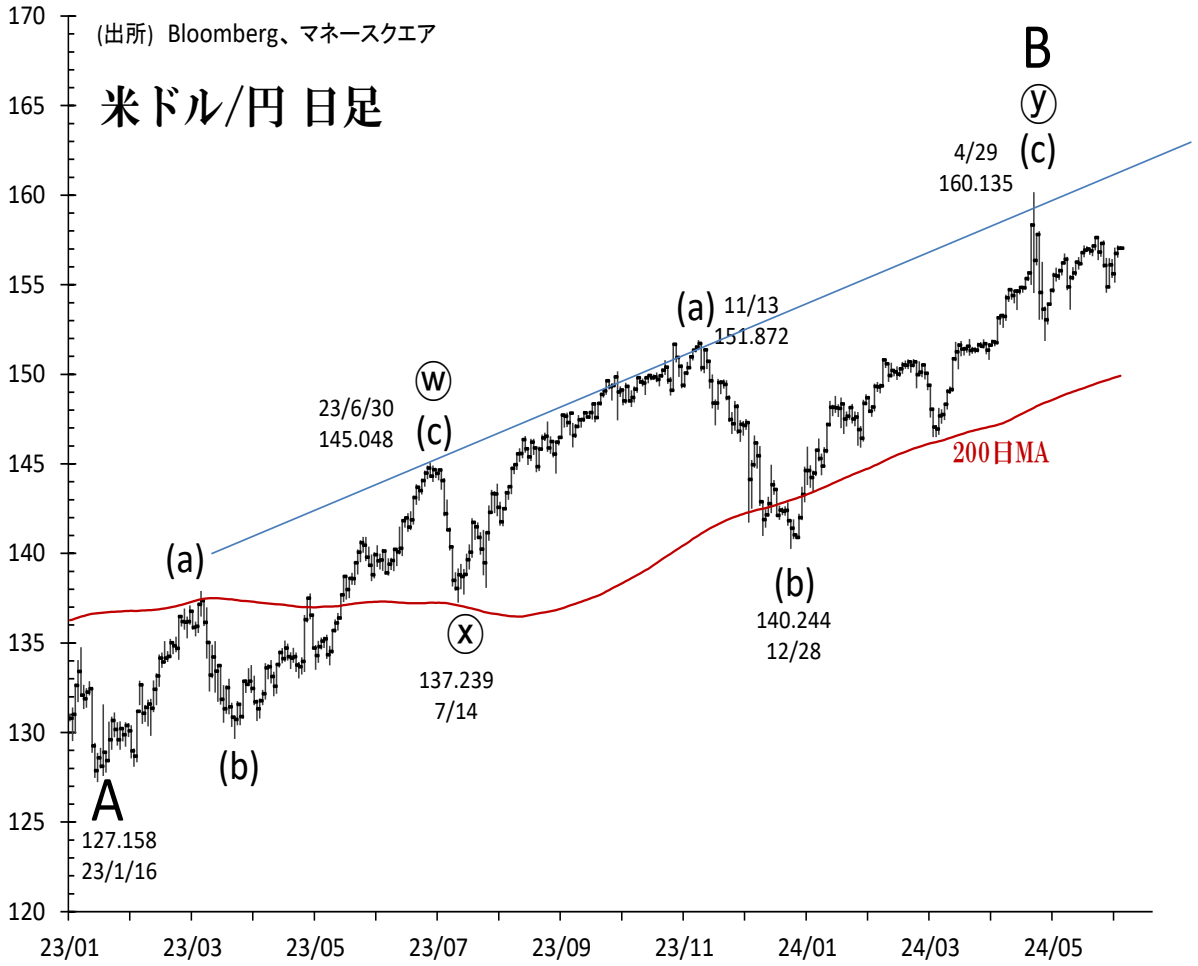
【週足・エリオット波動分析】

22 年 10 月（151.899 円）からの A(↘)-B(↗)-C(↘)編成において、23 年 1 月（127.158 円）からは B 波に位置付けられ、それは 151.899 円を超えて不規則天井（イレギュラー・トップ）を形成しています。

160.135 円を B 波終点とみなすと、B 波の長さは A 波に対し 1.333 倍になります。B 波は A 波の 1 倍超～1.382 倍の範囲内で通常は決まりますが、今回の B 波もノーマルな範囲内に収まっています。ちなみに A 波の 1.382 倍なら B 波トップの目標値は 161.350 円です。

160.135 円(4/29)から C 波による下落局面（ドル安・円高）が進行中とみられます。
この C 波は今後 140 円～135 円を試す可能性がある、と筆者はみています。

© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.



【日足・エリオット波動分析】

23 年 1 月以来の B 波によるドル/円上昇は、[ダブル・ジグザグ]編成で 160.135 円(4/29)を以て完了したとみられます。

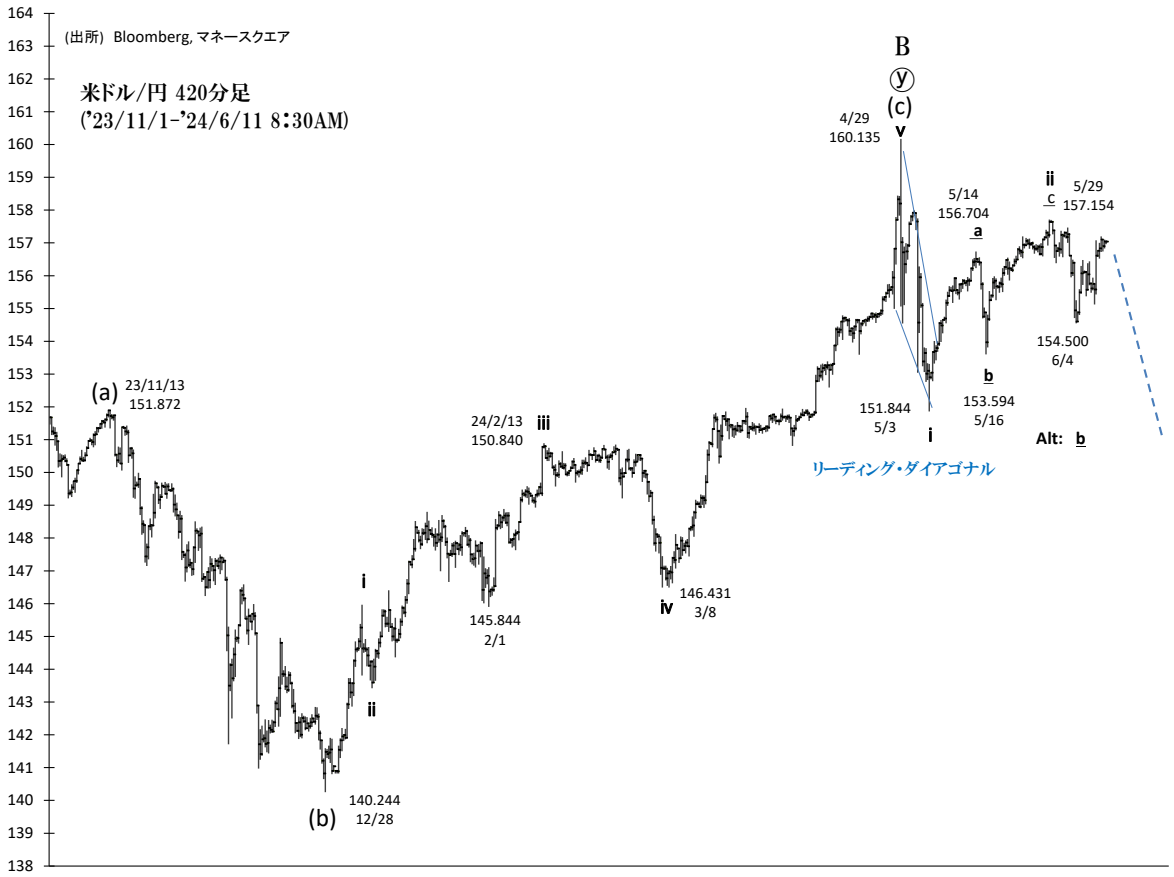
4 月に入ってからの急激なドル/円上昇（152 円⇒160 円）は、日米実質金利差を反映しておらず、専ら投機によってもたらされました。『円安プチバブル』とも呼べる過剰な円安ですが、それも今後は修正されていくと思われます。

日米実質金利差による試算では、現在の妥当なドル/円水準は 149.138 円です。

筆者は、米長期金利の大幅な低下≒大幅な米ドル安を見込んでおり、そうなれば日米実質金利差の縮小に沿ってドル/円は 150 円を下回っていくでしょう。

そのような局面においては、投機筋による過剰な円売りポジションも解消され、ドル/円の下げは一段と大きくなることが想定されます。

© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.



【時間足・エリオット波動分析】

160.135 円(4/29)から 151.844 円(5/3)までの下落(円高)は、「リーディング・ダイアゴナル」による第 i 波とみています。

151.844 円からの、第 ii 波「ジグザグ」は 157.154 円(5/29)で完了した可能性があります。

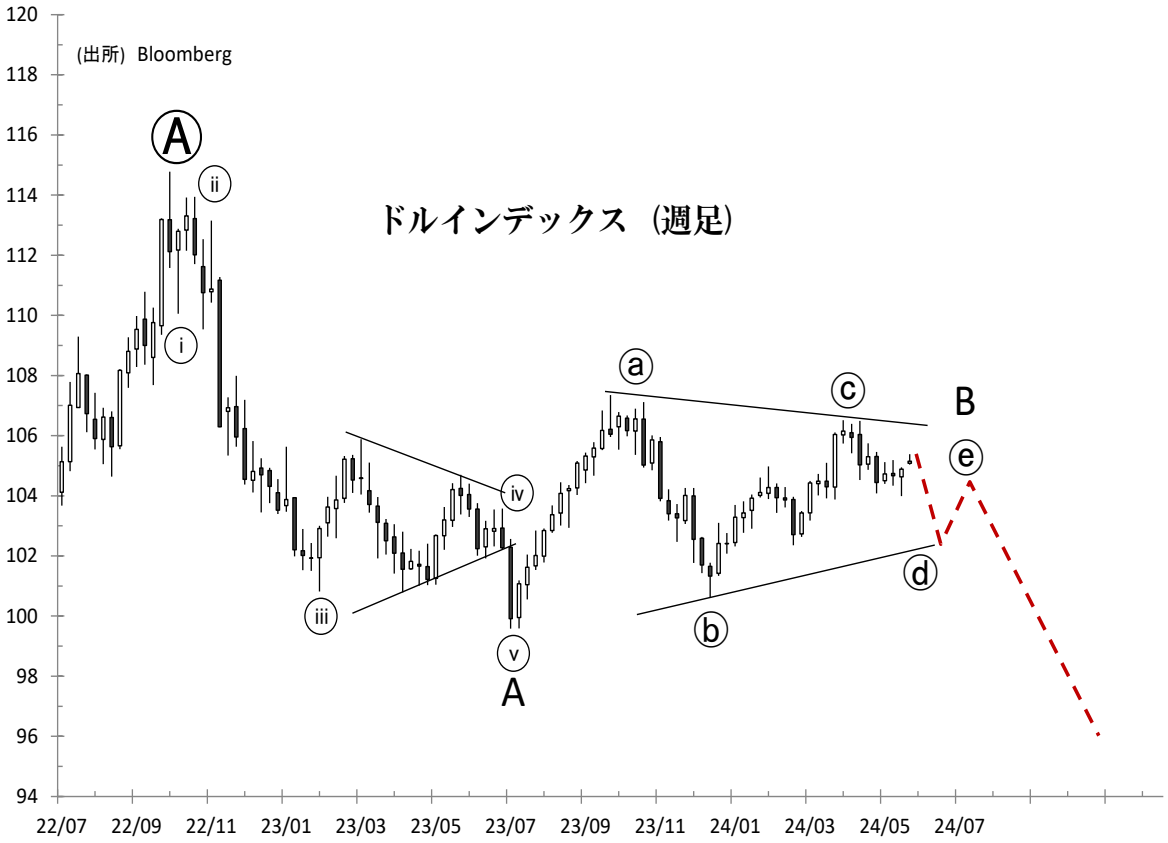
154.500 円(6/4)を下抜くことにより、第 iii 波によるドル安・円高トレンドに入った、という見方は強められます。そうなればドル/円は、当面 153.594 円(5/16)を下抜く動きとなりそうです。

なお第 ii 波が続いているなら、156.704 円(5/14)から 154.500 円(6/4)までは[ランニング・フラット]による b 波であり、足元の上昇は c 波に位置付けられます。この場合ドル/円は、154.154 円を一時的に上回りますが、その動きを以てリバウンドは完了します。

© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.

© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.

ドルインデックス（ドル指数）



【週足・エリオット波動分析】

22 年 9 月高値（114.778）以来、ドルインデックスは A(↘)-B(↗)-C(↘)編成による下落基調にあります。

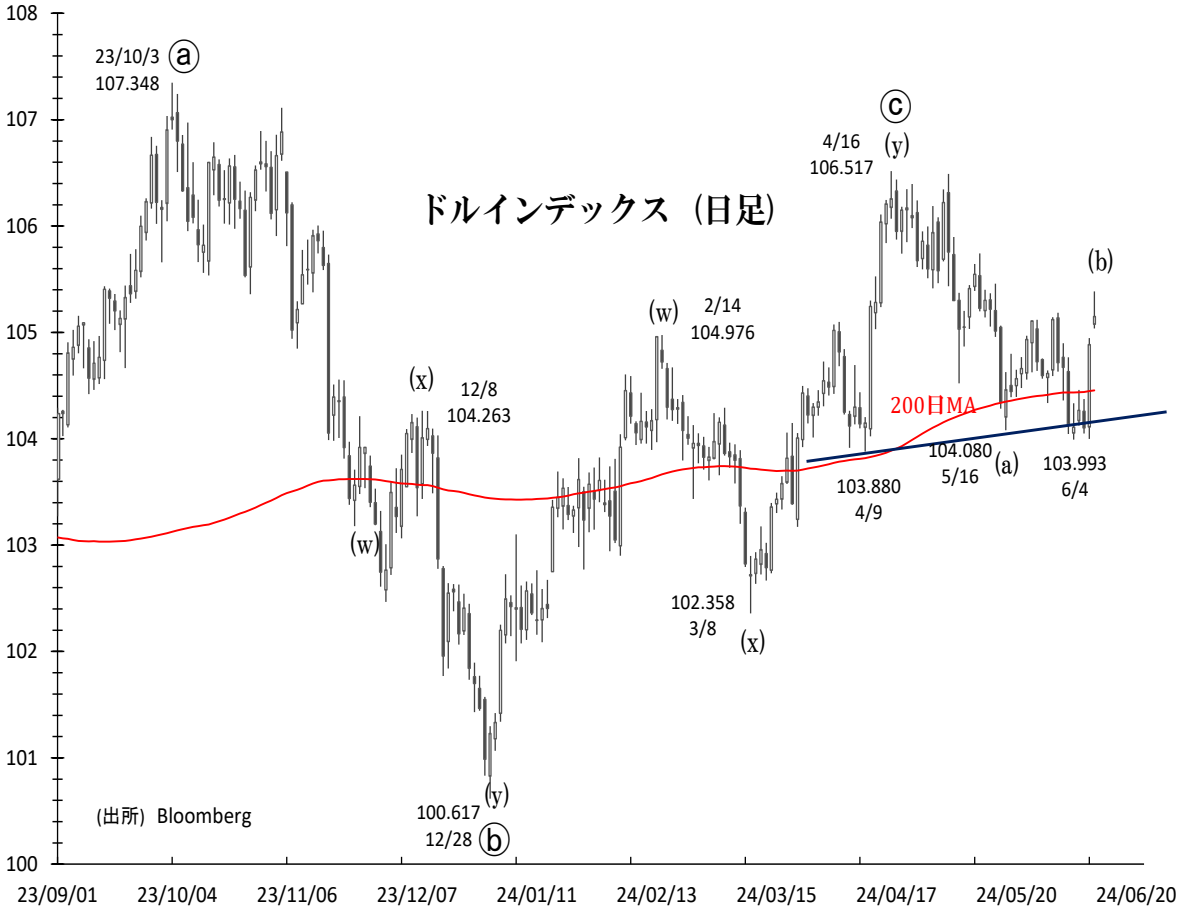
23 年 7 月安値(99.578)を起点とする B 波は、トライアングル(ⓐ-ⓑ-ⓒ-ⓓ-ⓔ)を形成中であり、足元はⓓ波のドル安局面が進行中です。

おそらく今後の数週間～1 カ月以内に B 波は完成し、その後に到来する C 波によって、ドル指数は 23 年安値(99.578)を大きく下回るでしょう。

【日足・エリオット波動分析】

6 月 4 日に付けた 2 カ月ぶり安値（103.993）から急反発していますが、それは 104.080(5/16 安値)から続くⓓ波中(b)波[フラット]における c 波とカウントできます。この見方によれば、目先的にもⓓ波-(b)波は完了し、ⓓ波-(c)波によるドル安が始まるでしょう。

© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.



※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。
※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。
※当レポートのデータ情報等は信頼できると思われる各種情報源から入手したものですが、当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。
※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.

当社サービスに関しての注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引および取引所株価指数証拠金取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもありますが、お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引および取引所株価指数証拠金取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。
・取引所株価指数証拠金取引における委託手数料は注文が成立した日の取引終了後の値洗い処理終了時に証拠金預託額より、新規および決済取引のそれぞれに徴収いたします。手数料額は、通常 1 枚あたり片道 303 円(税込)、NY ダウリセット付証拠金取引および NASDAQ100 リセット付証拠金取引は 1 枚あたり片道 33 円(税込)です(ただし、建玉整理における委託手数料は無料です)。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差(スプレッド)があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がることがあります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率(為替リスク想定比率)を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率(為替リスク想定比率)は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10%です。取引所株価指数証拠金取引に必要な証拠金額は、商品ごとに当社が定める 1 枚あたりの必要証拠金の額に建玉数量を乗じる一律方式により計算されますが、1 枚あたりの必要証拠金額は変動いたします。

金融商品取引業 関東財務局長(金商)第 2797 号
【加入協会】日本証券業協会　　一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア

© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.